



妻北っ子だより

令和3年度 12月号 文責 校長

師 走 (しわす)

2021 (令和3年) が暮れようとしています。
がんばったこと、できるようになったこと、がんばったけどうまくいかなかったこと、失敗してしまったこと・・・等4月からを振り返れば、様々なことが思い出されます。

子どもたちは、どんな振り返りをするでしょうか？

3学期に活かすことができる振り返りをして、有意義な冬休みをすごしてほしいと願っています。



スクールカウンセラーと話してみませんか？

本校では、県教育委員会から心理カウンセラーを派遣していただき、子どもさんの成長に関わること、子育てされているうえで困っていること、保護者ご自身のお悩み等について相談できる機会を設けています。

心理カウンセラーについては、普段は病院に勤務されている心の専門家であり、法律により相談の内容 (悩みごと・困りごと等) が他者に知られることはありません。

これまでは、こちら (学校) から困り感のある方へお声かけしていましたが、今回広く保護者の皆さんへお知らせすることとしました。

カウンセラーが本校に来られる日時は下記のとおりです。

記

令和4年1月11日 (火) 午前8時30分から午後3時30分

相談を希望される方は、1月7日 (金) までに学級担任・養護教諭 (青木)・特別支援コーディネーター (上野) へ「スクールカウンセラーに相談したいとお伝えください。

(この時点で相談内容をうかがうことはありません) 」

なお、お申込み多数の場合は、時間等の調整を行うため、担当から相談内容をおうかがいすることがありますので、ご了承ください。

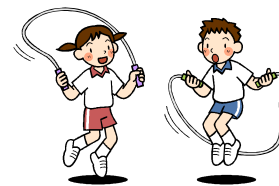
授業参観・懇談への参加、ありがとうございました

11月26日 (金)、本年度2回目の参観日を実施しました。

平日の実施にもかかわらず、たくさんの皆さんに足を運んでいただきました。コロナウィルス感染予防対策 (密を避ける) の観点から4・5・6年生を午前中、1・2・3年生を午後に分けて実施したところ、ご理解とご協力をいただきましてありがとうございました。

活用機器の不具合により、中学校再編に係る説明が時間通りにできなかったことは今後の改善してまいります。

「運動の日常化」へ向けて



皆さん、1日30分以上の運動をされていますか？

私の場合、子どもの頃はあんなに運動して（遊んで？）いたのに、30代・40代・・・と年齢を重ね、温かい気候であれば、週末や空き時間を利用してジョギングやウォーキングができますが、寒さを覚えてしまうと、外に出ることさえ億劫（おっくう）になってしまう次第。

実は、子どもたちの体力づくりや運動する習慣づくりも、本校の課題のひとつでありまして、スポーツ少年団等で日常的に運動している子とそうでない子、運動することが好きな子とそうでない子の二極化現象は、県全体の課題となっています。

3学期に入ると「縄とび運動」月間が始まります。この「縄とび運動」、短なわ一本と畳一畳分のスペースさえあれば、長い時間跳び続ける運動や様々な技に挑戦して巧みな動きを身に付ける運動ができます。長なわを使えば、8の字とびの回数を学級や学年で競い合い集団で運動する楽しさを味わうこともできます。

もちろん、二重とびに挑戦して縄が足に当たる痛さは我慢するしかありません。

経済的で、手軽にできて効果の上がるこの運動、可能であれば、3学期だけでなく、1年間通して学校や家庭で取り組むことができたらと考えています。



行事

1月

1日（土）元旦

6日（木）3学期始業日・冬休み図書返却
縄とび月間開始（2/7まで）

7日（金）図書貸出開始・委員会活動

10日（月）成人の日

11日（火）読書の日、すこやか調べ開始

1月

12日（水）避難訓練（火災想定）

17日（月）登校班会

・新入生保護者説明会

19日（水）英語検定（6年）

21日（金）給食感謝放送

24日（月）朝の運動・清掃班編制

28日（金）教育相談アンケート開始

31日（月）性に関する指導週間開始

賛 否 両 論

ご依頼していました学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。現在、集計作業の真っ最中でありまして。

集計後は、昨年度との比較を行い、令和4年度に向けて、どこまで皆さんのご意見・ご提案を反映させることができるかという視点で分析していきます。

ただ、学校は限られた予算・人員・時間・施設・設備で運営される機関ですから、全てを受け入れ反映させることは難しいということもご理解をいただきたいと思っています。

2学期末ではありますが、学校では令和4年度の教育課程（教育計画）策定準備に着手します。3学期になると、皆さんのご意見・ご提案のほかに、国や県・市の方針等も踏まえ、本格的作業を進めていく必要があるからです。

「子どもたちの安全安心・学びをどう保証していくか」ということを主眼に置いてしっかり検討していきたいと考えています。